

### あしがら内外の話題

#### あしがら文化財探訪 (10)「米倉寺」

中井町北窪の米倉寺は曹洞宗に属し、天文元年(1532)に秦野市の蔵林寺二世である天寿宗高和尚によって開創されました。米倉寺は甲州武田家臣の米倉丹後守種継が井ノ口に移住してきた時に、昔よりこの地にあった用国院を再興して米倉寺とし米倉氏は三代に亘って井ノ口に居住しました。米倉氏に



よって建てられた米倉寺の本堂と庫裡は正保2年(1645)に焼失しましたが、慶安2年(1649)までに再建され、この寺の「梵鐘」。「本堂大間・内陣の欄間彫刻 6基」、「米倉一族の墓」が中井町

の指定重要文化財となっています。梵鐘は寛永7年(1630)に鋳造されたもので、昭和30年頃まで「時の鐘」として鳴らされていました。また、本堂大間・内陣の欄間彫刻6基は天保3年(1832)の作で、龍・獅子・麒麟が彫られており、米倉一族の墓は米倉丹後守種継から権太まで3代の墓で、300年以上もの風雪に耐えて今に至っています。  
(学芸員・岡田耕造)

### 伝言板-2015

《創作童話・発表》  
「メロン村の心太」は、「イスラム国」を名のるテロ集団が多くの人を苦しめ殺りくを繰り返していたのを知りヨルダンへ出かけ、イスラム国にいる人質をメロンやお菓子と交換して、無事救うことが出来ました。(歩可和)  
▼検索⇒「あしがら里山だより」or「メロン村の心太」

### 里山のくらし 10



#### <カフェ リーフス CAFÉ LEAFS>

店主:井上伸夫さんは山登りが好きなことから茅ヶ崎から山北に移り、自分でログハウスを造ってカフェ リーフス “CAFÉ LEAFS” を始めた。  
R246 山北の安戸交差点を右に曲がり大野山へのハイキングコースの途中に山小屋風のカフェがある。お店の周りには自然がいっぱいの里山風景が広がり、酒匂川の渓谷が間近にある。よくハイカーが訪れ憩いの場となっている。県知事から優良店舗の表彰を受けたという。店内では水音や野鳥のさえずりを聞き、おいしいコーヒーと自家製のレアチーズケーキ 300 円が人気。  
この「里山だより」も展示してもらっている。  
(湯川仁士)

### あしがらの憩いスポット

#### ローカル・アート



<岩原駅>(イラスト:沖野紘史)

発行:探訪シリーズ各巻/400円

①.発見の旅	観光名所・施設等の案内
②.季節の暦	歳時記(食事・農事など)
③.野草の詩	野の花(歳時記・俳句集)
④.巡拝の路	上郡神社巡り・歴史探訪
⑤.川辺の輝	酒匂川検定(橋・クイズ)
⑥.観音の姿	上郡観音巡りで町おこし
⑦.文化の葉	里山文化&文化財リスト
⑧.伝承の記	おばあちゃんの家事日記
⑨.民話の村	足柄上の民話(60集話)
⑩.創造の風	21世紀の足柄上の発展?

### 《里山エリア情報》

編集後記  
あしがらの里山も陽春の候となりました。この度、冊子:「文化の葉」を発行しました。購入をご希望される方は(府川82-4640)へ  
・生活の文化  
・くらしの文化  
・子供の遊び文化  
・文化財探訪 etc.  
但し、⑧~⑩は今後発行予定です。

### 《里山だより編集》

- ・府川 栄一
- ・湯川 仁士
- ・岡田 耕造
- ・吉田 文雄
- ・高橋 純子
- ・沖野 美晴
- ・野田 瑞枝
- ・門松とよ子

“あしがらの里”探訪ツアー … 観音/神社/橋/名木

# 足柄 あしがら里山だより

E-mail eiichi.fukawa@yahoo.co.jp 編集者:NPO 足柄/地域づくり研究会

発行No.: 足柄里山-O10号  
発行日: 2015年3月1日  
発行所: 大井町金手 1078  
発行者: ロータス・友の会  
連絡先: 0465-83-3521

今月のことば…生命の息吹き・初節句ひな祭り・日本酒のおいしい季節・神奈川の酒蔵探訪

## 《里山エリア情報》春の里山の行事(ひな祭り)を紹介します

枯れていった大地から、木の芽が吹き、四季はよみがえります。あふれるうすいみどりの息吹き。なんと、すばらしい自然の奇跡の創造なのでしょう。  
しかしながら、顕在化する異常気象。IPCC(気象に関する世界的機関)は、最近、これからの三十年間で、地球温暖化にブレーキをかけなければ、その後、気温は上昇し続けるとい警告・提言をしています。  
私たちは、自らの生命環境を守るために、ライフスタイルの変革を余儀なくされています。里山との交流を深め、自然と調和する地域づくりをしていきましょう。  
(湯川仁士)

### 生命の息吹き



若葉のしえる頃  
湯川仁士  
谷や沢にあふれる  
みずみずしい  
生命感  
あめたふらふら  
新しい息吹きが  
山のどしどしにも



### 日本酒の美しい季節

酒を自分の好みで温めて飲むというこのスタイルは、日本酒でしか味わうことのできない楽しみの一つです。



### 初節句

ひなまつりは、女の子の初節句になります。お人形を飾りつけ、家族・親族でお祝いし、未永い健康と幸せを願ってあげたいものです。

〔付記〕 暖かい早春の光。谷や沢にうすいみどりが萌え始めます。漂うみずみずしい生命感。ああ、四季はよみがえる。私たちが気持ちを新たに、生まれ変わります。

### 里山歳時記

#### 【3月/弥生】

#### ○ゆきゆきと春が行くぞ

#### 野べの草/一茶

啓塾(345度、3月6日)

冬ごもり中の虫が目覚まし姿をあらわす。「冬ごもりの虫を啓く」

春分(0度、3月21日)

昼と夜の時間が同じ。「春の最中夜昼半分」



#### 『冷や』と『爛』どちらがお好き?



日本酒の温度を表すときに、一口に「冷や」、「爛」という言葉で、かたづけしてまい

がちですが、日本語ならではの微妙な言い回しがあります。暑気払いには冷やが最適ですが、俗に言う「冷や」は冷やしたものではなく常温を表します。氷を入れたり、冷蔵庫に入れて冷やしたものは「冷酒」といい、冷やす表現は雪冷え(5度)、花冷え(10度)、涼冷え(15度)というように区別します。  
反対に、寒い時期になると恋しくなる爛は、昔は「直爛」といって直接火にかけて温めていたそうです。電子レンジでチンするやり方も、あなたが間違いないとはいえないかもしれません。とはいっても、やはりお銚子に入れた日本酒をお湯で間接的に温める方法が最適です。爛には30度前後の日向爛、35度位の人肌爛、40度前後のぬる爛、45度位の上爛、50度前後の熱爛、55度以上のとびきり爛というように、なんともいえない味わい深い表現があります。  
(神奈川県酒造組合ホームページ)

※「ふるさとネットワーク広場」へのご意見ご提案は、「あしがら里山だより編集室」へお寄せください。

ロータス足柄友の会  
「あしがら里山だより」  
ふるさとネットワーク

里山だより発行  
0465-83-3521

燃費は 37km/L!



ふるさとネットワーク広場  
牛島・トークサロン  
ふるさとネットワーク

○連絡先: 開成町牛島 83  
090-7425-1888(露木)

足柄/地域づくり研究会  
あしがらの里 “文化の葉”  
ふるさとネットワーク

〒258-0019 大井町金子 94-3  
0465-82-4640 (府川)

提供: ロータスフジサワ大井松田店 〒258-0018 足柄上郡大井町金手 1078 TEL0465-83-3521



### ひな祭り／弥生

ひな祭りは、「桃の節句」と言われます。

現在は、西暦の3月3日ですが、旧暦では4月の上旬頃に  
あたるそうで、ちょうど、桃の花が香り出す季節だったから、桃  
の節句と名付けられたようです。桃は、例えば古代中国では、  
邪気払いや不老長寿の実としてありがたがられたそうです。  
(桃は中国が原産の植物です。)また、古代日本においても似た  
ような考え方があったとされています。



ひな祭りは、基本的には、女  
の子(子供でも大人でもOKで  
すよね!)が主役のお祭り。

生まれたばかりの鳥の子ども  
を「雛」と言いますが、この事か  
らも分かりますように、雛には  
「小さい、こども」といった意味  
があります。古く平安時代に  
は、小さな人形(雛人形)や家  
財のおもちゃで遊ぶ事から「雛  
遊び」と言いました。後世に雛  
祭りと言われるようになったの  
がいわれです。

桃の節句は、雛人形を飾っ

て、うたを歌ったり、遊んだり  
して、こどもの健やかな成長や幸  
せを願うお祭り・行事です。雛  
祭りならではの行事食、料理、  
食べ物、お菓子などで、楽し  
く過ごしたいものですね。

#### 由来について

ひな祭りは、日本独自の行  
事で、「上巳の節句」ともいま  
す。節句は、季節の変わり目  
である「節」に関する昔の中国  
の暦に由来しており、そもそ  
も、宮中行事として行われて  
いました。ちなみに「端午の節  
句」も、宮中行事に由来してい  
ます。また、平安時代ころに貴  
族の子どもたちが遊んだ人形遊  
び(雛遊び)の風習が、江戸時

代に入ると、一般の民衆にも広  
がり、それが、「上巳の節句」と  
融合して、現在のひな祭りの原  
型へとようになっていたとも言  
われています。



ひな祭りが女の子のお祭り  
の色合いが濃いのは、古来よ  
り、雛遊びをしていたのは、女  
の子が多かったことや、雛人形  
が嫁入り道具に持たされた事、  
なども関係しているように思  
います。



#### <ひなあられ>

ひなまつりの行事食のお菓  
子として、まず思い浮かぶのは  
ひなあられです。関東系は甘  
くて、関西系はいわゆる醤油  
系あられ、などと言われます。

#### <菱餅>

菱形をした3色のお餅です  
よね。上から赤(ヒシの実)、白(ク

チナンの実)、緑(草餅・よもぎ)  
が古き伝統の雛祭りの行事食  
です。江戸時代頃より、現在の  
形となったようです。

#### <ちらしずし>

具材や彩りを工夫すれば、  
お祭りにふさわしい華やかさを  
演出する事が出来る、雛祭りの  
行事食の定番です。



#### <はまぐりのお吸い物>

縁起の良いとされる食材、い  
われがある食材が、古くから節  
句の行事食には使われますが、  
ひな祭りには、はまぐりのお  
吸い物がよく作られます。



(あかさたな雑学情報ホームペ  
ージ)より

足柄ふれあいの村だより・3月

### わくわく自然探訪記

—あしがらの里山、四季の生き物—

春先に寒い日と暖かい日が繰り返すことを、三寒四温と言  
うようになったが、そんな繰り返しをしながら春めいてくる。冬鳥  
は北に向かい、水温む水辺ではカエルの産卵が見られる。



#### <ヤマアカガエル>

水温み、「キヤラキヤラ」と  
ヤマアカガエルの澄んだ声が  
何度も聞こえるようになった。  
「蛙の笛」を思い出す。



#### <ツノハシバミ>

今年も雄花の花粉が飛び始  
めるころ雌花も咲いた。この木  
は道路拡張で伐採されたがこ  
こで新しい生命をつないだ。



#### <シメ・冬鳥>

暖かな風が吹き、日差しも少  
しずつのびてくると、北の国か  
ら渡ってきた冬鳥たちは帰り支  
度を始める。「パチッパチッ」  
と、種を割る音が聞こえてくる。  
辺りを探すと、シメが木の実を  
探しついでに、シメが木の実を  
探している。たくさん  
食べた元気に長い旅を頑張っ  
てほしい。ルリビタキ、ジョウ  
ビタキ、ツグミみんな元気で。



#### <ダイユウベニザクラ>

河原の石を積み上げ護岸工  
事をした丈夫な石垣。ダイユウ  
ベニザクラは石積みの中に根  
を張り見事な花を咲かせてい  
る。厳しい環境の中で風雪に  
耐えた貴重な花。それを支え  
た優しい人の心が届いたのだ  
ろう。ソメイヨシノよりも少し濃  
いめのピンク色で美しい花を  
上総川の岸辺で見ることが出  
来る。

(学芸員・吉田文雄)



### あしがらの里 酒蔵案内

あしがらの酒蔵は、豊かな水と緑に恵まれた  
神奈川県西部、足柄平野に位置し、四方を丹沢  
山塊や箱根連山の美しい山並みに囲まれており  
ます。梅の咲く時期には新酒の出来上がりとし  
重  
なつて、毎年多くの観光客が訪れます。



作成:神奈川県酒造組合



現在、神奈川の地酒は13の酒蔵で造られ、その内5つの酒蔵が足柄上地域に有ります。



7 大井町上大井 954

#### <石井醸造>

創業は明治三年で、現社長  
(石井省吾氏)が五代目です。  
代表銘柄「曾我の誉」はこの地  
が昔、「曾我村」と言ったことに  
ちなんだものです。「曾我」とい  
う地名を開けば、「富士の仇討  
ち」として名高い曾我兄弟を思  
い浮かべることでしょ。城前寺  
には兄弟のお墓が祀っており、  
毎年五月二十八日には曾我兄  
弟九討ちゆかりの傘焼き祭りが  
盛大に行われています。

☎ 82-2341



8 大井町上大井 552

#### <井上酒造>

寛政元年(1789年)の創業以  
来、七代、二百年以上にわた  
って酒川流域に広がる足柄平  
野大井の庄で、箱根からの清  
涼な冷気と伏流水、そして厳選  
された原料米を使って日本酒  
を造りつづけてまいりました。  
その間「酒は人柄が造る」と信  
じて貫いて守り通してきたもの  
があります。

○一輪の 梅の香りや 酒の味

☎ 82-0325



9 松田町松田惣領 1875

#### <中沢酒造>

小田原藩の御用商人として大  
久保家に入り、藩公より松田  
周辺の景勝に因んだ酒名「松  
美西」を賜りました。松美西の  
酒造りは厳選した酒造好適米  
を一粒一粒大切に磨くことから  
始まります。純米酒と生酒にこ  
だわっている酒造りだからこ  
そ、原料米、仕込み水も吟味  
し、「こびず、おごらず」素直な  
酒造りを心掛け、ひとつひとつ  
丁寧にじっくり時間をかけて醸  
造しています。

☎ 82-0024



11 開成町金井島 17

#### <瀬戸酒造>

所在地の古名である金井島  
村は、相模ノ国の中心であり江  
戸時代、雄町・神力・朝日とい  
った酒造米を栽培し、丹沢山系  
の豊富な伏流水と水車を使っ  
た小田原藩の銘醸地として栄  
えました。かの地で幕末より続  
く代表銘柄の「酒田錦」は文字  
どおり、酒米の出来る田のある  
場所で醸した錦のような酒とい  
う意味をもって命名されました。

☎ 82-0055

神奈川県酒造組合ホームページ